

信州大学サポーターズクラブメルマガ第98号 2021年9月30日

信州大学サポーターズクラブ

メ | ー | ル | マ | ガ | ジ | ン | 第 98 号 |

信州大学サポーターズクラブ事務局

2021年9月30日

-----毎月月末に配信しています-----

【 I N D E X 】

シンダイ百科

信大からのお知らせ

信州の景色

■=====【シンダイ百科】=====■

今月は2つのサークルをご紹介します。

まずは

『コミュニティスペース ロッピキ』

をご紹介します！

コミュニティスペースロッピキ（以下、ロッピキ）は「人と人が繋がる場」をコンセプトに12名で活動を行っています。学生と学生、学生と地域、学生と社会人など様々な年代の「交流」を目的にジャンルを問わずイベントを企画し活動しています。お話は経法学部の深瀬さんに伺いました。

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

続いて

『ケルト音楽研究会 S-Celts』

をご紹介します！

ケルト音楽研究会 S-Celts（以下、S-Celts）は学部生から社会人まで約100人で活動しています。他大学のケルト音楽交流会と交流して、ケルト音楽独自の楽器も熱心に練習しています。そんなS-Celtsの活動について織維学部の布施さんにお話を伺いました。

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

■■■■■■■■■■【信大からのお知らせ】■■■■■■■■■■

白馬で知る・学ぶ「いま」の防災減災（第2弾）

が開催されます

過去の災害を振り返り、これからの災害に備えて私たちの防災減災の「いま」をアップデートしませんか。スノーピーク白馬の方から、キャンプ用品やアウトドアグッズの活用法を学べるセミナーを開催します。セミナー申し込みは不要で、参加費も無料です。

○詳細はこちら

<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/education/event/other/2-2.php>

■■■■■■■■■■【信州の景色】■■■■■■■■■■

姨捨駅から秋の景色を望む

今回は千曲市にある JR 篠ノ井線姨捨(おばすて)駅からの景色をご紹介します。訪れたのは3連休の中日でしたが、ホームに降り立った瞬間から、爽やかな秋の景色と棚田の稲刈りの様子を見ることができました。

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

メルマガのバックナンバーはこちらから

<http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/mail/>

『信州大学サポーターズクラブメールマガジン』

編集・発行/信州大学サポーターズクラブ事務局

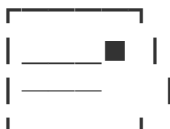
長野県松本市旭 3-1-1

【 Mail 】 koyukai@shinshu-u.ac.jp

【 H P 】 <http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/>

【 F B 】 <https://www.facebook.com/shindai.koyukai>

2021.9.30



信州大学サポーターズクラブ【シンダイ百科】第98号①

Q)コミュニティスペース・ロップキ（以下、ロップキ）はどんな団体ですか？

A)ロップキは①学生の居場所づくりと地域交流、②異世代交流の場を作ることを中心に2016年に設立しました。ロップキでは『人と人がつながる場』をコンセプトに、『出会いの創造／挑戦／可能性の開拓／ワクワク』を理念として、学生と学生、学生と地域、学生と社会人等、様々な方々がロップキに集い、交流すること、それらを通して、『人と人がつながる場』というコンセプトを体現していくこと、を目指して活動しています。

Q)ロップキで開催するイベントは様々な人を対象にしていますが、イベント企画する際の流れと気を付けていることや大切にしていることを教えてください。

A)イベントを企画する際は、まずは、どんなイベントをしたいか、みんなでアイデアを出します。その後、みんなが良かったアイデアについて、開催の時期を考えます。また、企画の際に気を付けていることは、2点あります。1点目は、昨今の状況もあるので、感染対策がきちんとできるか、密にならないかに気を付けています。2点目は、開催の日程や時間に気を付けています。なるべく学生の皆さんや地域の皆さんが参加しやすいようにしています。その上で大切にしていることは、コンセプトである「人と人とが繋がる場」に沿った場にすることです。ロップキのイベントでの新たな出会いにより、何かしらの化学反応が起きれば、と思っています。



【2019年6月開催 「たまり bar」の様子】

Q)これまでに実施したイベントについて詳しく教えてください。

A)【定期イベント】

2019年度の定期イベントは、例えば「たまり bar」や「ご飯会」がありました。「たまり bar」は、あるテーマ（例えば「焼き鳥」など）に沿って、お酒やおつまみを出します。学生の方だけでなく、社会人の方々も来てくださっていました。「ご飯会」は、あるテーマ（例えば「大分料理」など）に沿って、参加者みんなでご飯を作ります。この2つのイベントは概ね月2回のペースで行っていました。また、「ABD (Active Book Dialogue)」を1~2ヶ月に1度のペースで開催していました。これはまず、1冊の本を参加者の数だけ割きます。参加者は与えられたパートを読んだ後、内容を紙にまとめます。そして、自身の担当パートの内容を発表します。その発表を聞くことで、本の内容がわかる、というシステムです。その他にも、「人狼」や「ゲーム会」をしていました。また、地域との活

動では、毎年敬老の日の近くに、ロップキがある地域（萩町）の皆様をお招きして、交流会を実施しています。2019年度の交流会では、まず、参加者全員でミニゲームを行いました。ミニゲームでは、なぞなぞやティッシュづかみ（落ちてきたティッシュを箸でつかむゲーム）などをしました。その後、皆さんでお昼ご飯を食べながら、歓談をしました。2020年度に続き2021年度も中止になりましたので、今年も地域のお年寄りの皆さんにメッセージカードを贈らせていただきました。

【単発のイベント】

2020年度は、フリーマーケット（2020年10月、2021年3月）や各学部の1年生を招いて、ボードゲームで遊ぶイベントを行いました。2021年4月には福島第一原子力発電所に実際に行った方のお話を伺いながら、これからの福島やエネルギーなどについて考えるイベントを行いました。もともとは、ロップキが、不登校生徒が立ち寄れるような場所にといいことで話が進んでいました。2020年の秋に、松本市内にある予備校の不登校生徒を支援する部署（松本大学予備校 EXP0-J ルーム）の方にお話を伺う機会がありまして、その部署を卒業された方に偶然会いました。その方が福島第一原子力発電所に実際に行ったことがある方でした。その話を伺っているなかで、ぜひともロップキで実際に行ってみて感じたことなどを話していただきたいと感じました。そこで、その方とお話してこのイベントを企画しました。イベントを通して、福島の皆さんが厳しい状況にある中でも、一步一步前へ進もうとしていることがわかりました。同じく2021年6月には芸術系のワークショップ「ぴやつら展」を開催し、作品展示やシルクスクリーン体験、物品販売などを企画しました。参加された方は大学生だけでなく、芸術に興味のある社会人の方にもご参加いただきました。また松本市だけでなく、長野市など松本市外の方々にも参加いただきました。参加した皆さんは本当に楽しそうな様子でした。



【2021年6月開催のぴやつら展にて シルクスクリーン体験の様子】

Q)今後、力を入れていきたい活動を教えてください。

A)①定期イベントの企画（復活）、②ロップキを自習室として学生に開放したり、「レンタルオフィス」的な感じで地域の皆様やサークル等の団体にロップキを貸し出すこと、の2つを中心に考えています。①定期イベントですが、現状は昨今の状況により、これまでの活動が難しくなっています。しかし、あれから1年ほど経過しました。私たちも過去に囚われることなく、新しいイベントを企画していきたいと思います。②ですが、団体等にロップキを貸し出すことは以前からしておりました。2021年度は、wi-fiを再設置したうえで、オンライン会議（zoom）等に対応できるようにしようと考えています。また、「自習室」として学生の皆様を中心に開放しようと思っております。



【2021年3月 経法学部の1年生を招いたボードゲームで遊ぶイベントの様子】

Q)メルマガ読者の方々へメッセージがあればお願いします。

A)2021年5月8日にロップキはオープン5周年を迎えることができました。まずは、地域の皆様、大学関係者の皆様、学生の皆様など、ロップキを支援していただきました皆様に感謝を申し上げます。2020年度は社会全体の活動が停滞し、大学も講義がオンライン中心になるなど様々な活動が停止しました。私たちも例外ではなく、十分満足できるような活動を実施することはできませんでした。今年度はオープン5周年。新たな視点で、様々なことに挑戦していきたいと考えております。ただ、「人と人とが繋がる場」というコンセプトは変えず、学生同士や学生と社会人、学生と地域の皆様の交流の場をつくっていかうと思います。

また、従来から「地域創生」や「地域活性化」など、「地域」「地方」が重視されつつありますが、新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、より「地域」「地方」に重点が置かれつつあるように感じます。ロップキはより地域に密着し、萩町の皆様に何か少しでも貢献できればと考えています。今後予定しているイベントは以下のとおりです。

10月31日（日）ハロウィーンパーティー

11月6日（土）、7日（日）SU創作のイベント

11月頃 フリーマーケット（M-atty 信大ハンドメイドサークルと合同）

※コロナの感染状況で予定が変更される可能性もあります。

本記事で少しでも多くの皆様にロップキのことを知っていただければ幸いです。ロップキが魅力的で、皆様に少しでも「行きたい！」と思ってもらえるように努力していきたいです。そしてイベントの際には気軽にロップキにお越しくささい！イベント情報は、SNS（Twitter、Instagram）やポスターで発信していきます。ポスターは北深志にあるロップキの建物前に貼ってあります。ぜひ、SNSのフォローをよろしくお願いいたします。

【ホームページ】

<https://roppiki.wixsite.com/roppiki>

【Twitter】

<https://twitter.com/matsupuro2016>

【Instagram】

<https://www.instagram.com/roppiki.matsumoto/?hl=ja>

「人と人がつながる場」を作る舞台裏を垣間見ることができて、とても興味深かったです。昨今の状況から、様々な人が集まるイベントを計画・実行することが難しい状況が続いていますが、ロップキの皆さまの努力は間違いなく近隣の方々やイベント参加した方に届いていると思います。この度はインタビューにご協力いただき、ありがとうございました。

信州大学サポーターズクラブ【シンダイ百科】第98号②

Q)ケルト音楽研究会 S-Celts（以下、S-Celts）はどんな団体ですか？



A)私たち S-Celts はアイルランドやイギリスなどのケルト諸語圏に根付いた音楽を学び演奏しています。また長野県内のイベントでの演奏や、松本市内を中心にお店からの依頼を受けて、演奏活動をさせていただいています。研究会には学部生から大学院生、社会人まで所属しています。社会人の方々は演奏活動を見て、興味を持って加入してくださったり、卒業したOBOGが引き続き在籍することもあります。

Q)活動について詳しく教えてください。

A)松本キャンパスで週に2回練習会を行っています。また年に2回、松本市あがたの森公民館などで定期演奏会を行っています。ほかにもピクニックやBBQ、合宿、他大学のケルト音楽研究会との交流などのイベントがあります。他大学との合同合宿・練習会の場合は、「ギャザリング」という楽器ごとの技術交換などを行う他、ケーリーと呼ばれるアイリッシュ・ダンスのダンス会、簡単なクイズやゲームなどのレクリエーションを行います。ゲームの景品やクイズの回答がアイルランドに関係することが多いです。大会などはありませんが松本市内の演奏依頼を中心に過去にはアイルランド大使館の招待を受けてパーティーに参加したことなどがあります。



Q)ケルト音楽は伝統的な曲から現代的なバンド音楽まで幅広いものですが、演奏曲を決める際に基準にしていることや重要視していることはありますか？

A)部員が自分で練習する場合はみなそれぞれ好きな曲を演奏しています。しかしみんなが知ってる曲がないと一緒に演奏を楽しむことができない問題もありますので、全体で練習する曲はできるだけアイルランドにルーツがある伝統的な曲を取り扱うように心掛けています。

Q)ケルト音楽に用いられる独自の楽器があるそうですね。S-Celts ではどの楽器を所持していて、その練習はどのようにしているのですか？

A)現在演奏している楽器は、フィドル、アイリッシュフルート、ティンホイッスル、ローホイッスル、バンジョー、ブズーキ、ボタンアコーディオン、コンサティーナ、マンドリン、ハープなどがあります。これらの楽器の演奏について師事している先生などはおらず、先輩から後輩へ教えたり、独学で練習を行っています。年に数回他大学のケルト音楽研究会と交流を行って合同で練習をしています。



Q)S-Celts が考える「ケルト音楽の魅力」とはどんなものですか？

A)伝統音楽と現代音楽が融合した自由な風潮、聞きやすく疾走感のあるメロディー、独特で多彩なリズムなどがほかに無い魅力だと思います。

Q)メルマガ読者の方へメッセージをお願いします。

A)わたしたちの活動でケルト音楽を気に入ってくれば幸いです。ぜひ、演奏しているところを見かけたときは耳を傾けてみてください。

昨今の状況により、定期演奏会や交流会といった催し物の開催には二の足を踏む、或いは断念せざるを得ない場合もあるかと思います。早く状況が落ち着いて、皆さんの演奏するケルト音楽をゆっくり楽しむ時間が戻ってくことを願っています。この度はインタビューにご協力いただき、ありがとうございました。

信州大学サポーターズクラブ【信州の風景】第98号

千曲市にある姨捨駅の風景は日本3大車窓風景の一つとして有名です。電車の車窓からも駅舎からももちろん景色は楽しめますが、一番眺望を楽しめるのは、松本方面へ向かう列車のホームからだと思います。



黄金色の稲がさらさら音を立てて、秋の風に揺れていました。この日はお天気にめぐまれていたのでのんびり散策することができました。



棚田は稲刈りの真っ最中で、今まさに刈り取った稲を束ねて「はぜ」と呼ばれる 2-3 本の木を組んで支柱をつくり、そこに長い木を渡して結束した稲を干す「はぜ掛け」を行っている田んぼがいくつも目に入りました。



姨捨の棚田は、松尾芭蕉を始め多くの文人歌人が句を残しています。機会があれば初夏の頃、田植えの終わった水田に月が写りこむその景色を眺めにいらしてください。